

験（勿論、天文学を含む）でみることが望ましいとなっているにも拘わらず、天文学の講義も実験も全く行われていない大学のあることが今回の調査で明らかになったことは、中・小学校の現場で天文教材の取扱いに難渋している事実を知っているが故に、ことさら憂慮すべき現状であると言わざるを得ない。昭和49年6月に、日本教育大学協会（教大協）内の特別委員会の積年の努力が稔り、「教育関係学部設置基準要項案」が教大協の代議員会で一応決まった。その基準案の根本的考え方にも異論がないわけではないが、学科目の内容並びに名称については衆知をあつめ、遺漏なきを期すべきであるにも拘わらず、功を急ぐの余り、中途半ば乃至は明らかに不適當と思われるものが掲げられている。例えば、地学を二学科目に分けて「地学」と「応用地学」とする案に6月以降に修正されたと聞くが、その応用地学の中の講義題目を天文学、気象学とするが如きは正に噴飯ものである。代議員会に先立って開かれた本年6月の教大協第二部会（大学教官で組織）の評議員会では、たまたま順番で議長をしておったが、地学を二学科目に分けて「地質学・鉱物学」及び「天文学・地球物理学」とし、何れも完全学科目（教授1、助教授1、助手1）とする修正意見が出され、その他にも、学科目並びに教員組織や設備基準に不満足であり、なお、時間をかけて検討を要するとの意見が多かった。また、思うに、現在の小学校理科の内容

は、「物質」と「生命」と「地球と宇宙」であることに鑑みても、天文学教育の必要且つ重要であることを、当局並びに各教育学部に於ても認識して善処して欲しいと、痛切に感ずる。

そこで、日本天文学会としても、大学における天文教育を、研究者養成と同時に教育者養成という面からも考えて行くと共に、教員養成学部における天文担当専任教官の必要性を強調し、併せて、その地位が得られるような方向で大いに力を藉すことに努力していただきたいと切望する。
(昭和49年9月)

掲 示 板

「干渉計による天文学」シンポジウムのお知らせ

上記のようなテーマで現在宇宙電波将来計画で計画されている干渉計の観測を中心にしたシンポが開催されます。

詳しくは宇宙電波ニュース又は事務局まで

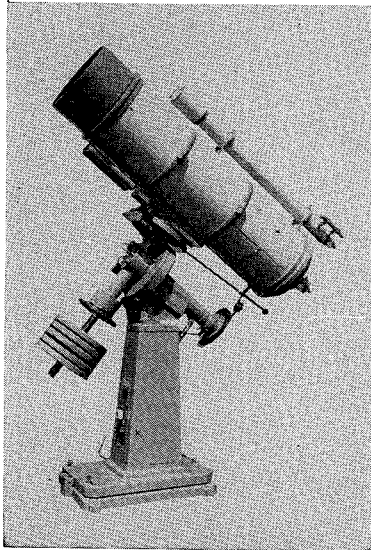
時 1974年12月1日午後1時～12月3日午後3時

場 所 静岡県賀茂郡伊豆町稲取保養所

(TEL 0557—95—2577)

宇宙電波懇談会事務局

(名大理 物理内)



天体望遠鏡
ドーム、製作

西村製の天体望遠鏡

40 cm 反射望遠鏡の納入先

- | | |
|--------|---------------------|
| No. 1 | 富山市立天文台 |
| No. 2 | 仙台市立天文台 |
| No. 3 | 東 京 大 学 |
| No. 4 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 5 | ハーバート大学 (USA) |
| No. 6 | 台北天文台 (TAIWAN) |
| No. 7 | 北イリノイズ大学 (USA) |
| No. 8 | サン・チェゴ大学 (USA) |
| No. 9 | 聖アンドリウス大学 (ENGLAND) |
| No. 10 | 新潟大学高田分校 |
| No. 11 | ソウル大学 (KOREA) |
| No. 12 | 愛知教育大学(刈谷) |

606 京都市左京区吉田二本松町 27

株式会社 西村製作所

TEL. (075) 771-1570
691-9580